

[COMMUNION]

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.html>E-mail: comm.tko@nsk.org

PHONE: 03-3433-0987

FAX: 03-3433-8678

Diocesan Office



第65号

(通巻1300号)

2023年7月23日

編集: 広報委員会

委員長: 渡辺康弘

日本聖公会東京教区

港区芝公園 3-6-18

《平和メッセージ》

いつになったら、兄弟を追うのはやめよ、と兵士に命じるのか

司祭 シモン 林 永寅 (イム・ヨンイン)

サムエル記下第2章の内容です。ユダとイスラエルの両軍はギブオンの池で出会いました。両軍の司令官はアブネルとヨアブでした。彼らは先ず自分の部下の中から12人ずつ選び出し戦わせます。彼らはお互いがお互いを殺した末、皆死んでしまいます。すると全面戦争が起こります。その戦争によってさらに数多くの人々が死にました。



せん。ところで、彼だけが戦争を遊びとして思っているのでしょうか。戦争中の国々の政治家、戦争の雰囲気盛り上げている者たちもこのように思っているのではないのでしょうか。

「若者を立てて、我々の前で勝負させてはどうか」(サム下2:14)

新共同訳にはこうなっています。ヘブライ語の原文を直訳すれば、「若者を立てて、我々の前で遊ばせてはどうか」となります。彼は戦争を遊びとして思ったのです。驚愕を禁じえま

いつも戦争の犠牲者のほとんどは弱者、小さくされた者です。故郷を離れ難民生活を強いられる者も、戦争の余波による世界的な物価上昇と経済不安の犠牲者も同様です。一方、権力者はより強い権力を得、資本家はより多くの富を蓄積します。ウクライナ

の戦争によってアメリカの軍事・穀物・石油産業関連の会社が史上最大の収益を上げたというニュースはどういうことでしょうか。そして、ウクライナの権力者の中には戦争中、賄賂を受け取り、富を蓄積したというニュースはどういうことでしょうか。「クイ・ボノ (Qui Pro)」という言葉はこのような時使うものではないでしょうか(クイ・ボノは「何のために」、また「誰が益になったのか」の意のラテン語の格言ですが、ふだん「益を得た者が犯人である」という意味として使われます)。

ウクライナで始まった戦争は全世界の人々を巻き込み、多くの国々を敵と味方として分け拵けています。注目されるのはアメリカ・日本・韓国対中国・ロシア・北朝鮮の組分け。すぐ戦争が起こりそうな雰囲気追い込まれています。最近こ

その規模と威力が想像を超えています。この期に日本は平和主義を放棄し、戦争可能な軍事大国を求めています。もしここで戦争が起こった、歴史上これまでの戦争とは全く違う戦争になるでしょう。いずれも核兵器を持つていて、また造れる国であるから、共倒れになるかもしれません。

それでは、どうやって戦争を止められるのでしょうか。戦争を遊びとして思っていたアブネルはこのように述べました。

「いつまで剣の餌食と合うのか。悲惨な結末になることを知らぬわけではあるまい。いつになったら、兄弟を追うのはやめよ、と兵士に命じるのか」(サム下2:26)

アブネルは、自分に迫ってくる死の恐れにこう言ったのかもしれないが、彼の言葉は兄弟として共存を求めなければ共倒れになるということをはっきりと教えています。

《日本聖公会アーカイブ》
東京教区100年の歴史より②

100年前の東京教区時報

今回のアーカイヴシリーズは100年前の東京教区時報がどのような内容であったかをお伝えしようと思います。なお本文の旧仮名遣い、旧漢字などは読みやすく変更いたしました。

東京教区時報の第1号は1924年（大正13年）3月10日に発刊されました。総会で教区の設置が決定されたのが前年の4月、監督（主教）選挙が5月17日、その按手式が12月



東京教区時報 第1号

7日ですから、設置決定から数えるとその間に関東大震災を経験しての約1年後ということになります。その時の編集発行責任者は高瀬恒徳長老（司祭）で価格は1部5銭でした。

まず巻頭には「発刊の辞」として以下のような文章が記されています。

「おおよそ、如何なる団体にても、その団体の強固にして健全なるを企画せんには、首部の意思目的が完全に各部に徹底し、各部の抱負希望が遺憾なく首部に到着し、同時に各部の精神と

活動とが洩れなく相互に了解せられ和衷（わちゆう）協同、一心一体となって生活するにある。内容もかくの如くして始めて充実し、外勢も延長せらるるものと信ず。

ここに東京教区時報を発刊するにいたりたるは、この原則を認め団体としての教区を強固堅実ならしめん為にほかならないのである。」

このように「教区時報」の大きな目的の1つは教区と各教会を結ぶためでした。それに続いてこうも記されています。

「『東京教区監督（主教）はこの大領域を支配し、この大人口を我が羊として牧飼するの責任を与えられている、然れども檻外三百万の羊を救はんには檻内三千の羊が、互いに知り、互いに親しみ、互いに祈り、互いに扶け、強固なる一団となって、霊に満ちたる、働きに生きたる神の器とならんことを希望する。霊内に満つれば必ず外に溢る、』」

次に「本時報の記事内容」として取り上げる記事を8つの項目に分けて記しています。

「一、本時報は毎号監督の説教または教書を掲載して監督の意思を教区内信

徒一般に疎通せしむ。

二、本時報は毎号監督の巡教日誌その他監督として執

りたる職務上の事項を掲載す。

三、本時報は教区内各教会の復旧復興その他進歩発達の状態を報告す。（以下略）」

次の2ページ目から6ページまでは初代監督・元田作之進師の説教を全文掲載しています。これは2月11日の日本聖公会組織成立記念の説教であり場所は旧南東京地方部仮大聖堂となっていました。人数は約250名、東京近郊のほとんどの聖職が参加したとあります。その日は紀元節ということもあり説教のタイトルは「教会対国家」、その内容は当時の日本を覆っている時代背景を色濃く反映したものでありました。

「『特に東京教区としてはこの紀元節を祝するにあたりて特殊の意味の存することを覚ゆるのである。そもそも聖公会なるものはその性質よりいえば全然超国家的のものであって、神の子たる人類の集団である。天国を地上に実現せんとする霊的結合である。賛美の頌のおいて唱うところの天下の聖公会とはこれをいのである、聖公会の



元田 作之進監督

公の字に現れたるカソリックがすでにこれを表明している、この意味においては聖公会は民族無差別、国家無差別の宗教団体である。日本聖公会はその一肢体であって、日本という字を冠したりとしてその性質を失うものではないのである。

然れども神が特に聖公会の一体をこの地に扶植しこれを培養しこれを発達せしめ給うには何らかの意味がなくしてはならぬ、神はこの特殊の集団をして、またこの特殊の土地において、人類救済、天国建設の一大理想を実現せんための神の器たらしめんとし給うことを疑うことは出来ない。』と語り、日本聖公会は日本という国を救済することを第一の使命とすることを高らかに宣言しました。今読むと大きな問題を感じる箇所も多々ありますが、東京教区が成立し大きな理想に燃えていたことは十分に伝わってきます。

次に「復興にみなぎる東京諸教会」として関東大震災からの各教会の復興状況が記されています。

「▼聖三一、青山の聖トマス教会と合併。新たに増築なりて八十の会衆收容せるに至った。震災による経済上の打撃も甚大であったが、牧師・委員共に最善の努力をもって今秋までには自給回復の予定と聞く。尚、近き将来にお

いて赤坂区内に適當の敷地を得、聖堂建設に着手すべし。

▼神田キリスト、新たに二万五千円を投じて、旧敷地に隣接の百五十三坪を買収す。仮会堂はすでに二月下旬に竣工し、三月第一主日、元田監督を迎え落成式礼拝を執行、続いて牧師館建設中。信徒一同復興の意気に燃えつつあり。

▼神愛、焼跡にバラック建設、昼は幼稚園を夜は無料宿泊所を営みつつあり、日暮里の新教会にても礼拝日曜学校を開始したり。…など細かく情報を伝えていきます。これを読むと当時の教会が震災という受難から復活する姿が浮かんできます。

その次に「教務日記」として監督の主な動静を載せています。内容には興味深いものが多々ありました。

「大正十二年十二月七日午前十時本郷聖テモテ教会において執行せられたる監督按手式により東京教区監督に聖別せられ、ここに始めて監督としての教務を執ることになりぬ。」から始まり、「同十二月十一日午前十時川口キリスト教会において執行せられたる名出長老の大阪教区監督按手式に列席し按手者の一人たる光栄を受く。同日午後二時大阪ホテルにおける名出新監督の歓迎会に臨み簡単なる挨拶をなす。当時の出席者三百名、来賓の一人たる友人中川府知事と旧交を温むるの機会

を得たるを喜ぶ、散会后別室においてウッド博士と教区の将来について会談一時間、同日堺市長老松本寛一氏の家に泊す。」

「大正十三年一月六日（現異邦日）午前十時浅草聖ヨハネ教会に出席して聖餐式を執行す、同教会は震災後その焼跡にテントを張りて礼拝場とせり、集まる者三十五人、テント礼拝式に出席したるはこれをもって始めとす、震災気分がすこぶる濃厚なりしを覚ゆ。」など所々に監督の心情が垣間見えるような文章です。そして最後に「辞令」と短く「報告」が載せられ、記念すべき第1号は閉じられます。

「辞令」には「大正十三年一月十七日、皆川晃雄、山田助次郎、小林彦五郎、松井米太郎、ウォルトン、佐々木鎮次の六長老を東京教区聖職試験委員として委嘱したり。」とあるなど、教区の黎明期を支えた名前が見られとても興味深いものでした。

いかがでしたでしょうか。教区成立100年を記念するとき、教区時報の第1号の内容を知ることができるとも貴重な職、信徒たちの持っていた息吹をリアルに感じ、知ることができるとも貴重な資料となります。先人たちの熱い思いが、今の私たちの礎であることにあらためて思いを馳せたいと思います。

【司祭のついで】

たどりつくまで ロバと三人の旅

（文）アン・ブース（絵）サム・アッシャー
（訳）真下弥生 新教出版社2022年刊

執事 藤田 誠

今回ご紹介する本はクリスマスの物語のその後が描かれた絵本です。イエスの父、ヨセフはイエスがベツレヘムで生まれた後、夢のなかで主の天使がこのように告げるのを聞きます。

「起きて、幼子とその母親を連れて、エジプトへ逃げ、私が告げるまで、そこにいなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」（マタイ2:13）

このお告げを聞いたヨセフは夜のうちにイエスとその母マリアを連れてエジプトへ向かいます。このエジプトへの旅路を彼らと旅路を共にしたロバの視点で絵本は物語られます。



す。そして、監理人が入管局への報告義務を怠ると罰金が監理人に科せられます。難民も支援者も苦しめる制度ゆえに改悪法と言

われています。

キリスト者にとって救い主であるイエスとその幼少期を支えたヨセフとマリアがいまの日本にいたらどのようなになってしまうのでしょうか？入管法改悪は人権問題として周知されていますが、これは、キリスト者にとって信仰の中身を問われる課題でもあります。

私たちは「難民」であったイエスとヨセフとマリアを命の安全が脅かされる状況にさせたままでよいのでしょうか？そのような問いかけをこの絵本を通して与えられました。

【Refuge】がオリジナルのタイトルです。「避難所」「逃れ場」という意味ですが、【Refugee】が「難民」と訳されるように聖家族として描かれるイエス・キリストと聖ヨセフ、聖母マリアは、今まで言う「難民」でした。この「難民」ということについて私が住んでいる日本を省みると、国が認める難民認定率は1%未満です。難民への受け入れがばばないという状況のなか難民申請に影響する入管難民法の改悪案が与党より国会へ提出されて、2023年6月9日、参議院で可

決・成立しました。この改悪法案によって、既に3回難民申請をしている人は状況次第で自国へ送還され、その人の命の安全が脅かされる事態になります。また、この改悪法案において「監理措置」制度が創設されました。これは、従来入管施設に収容されていた難民を支援団体の保護のもと生活できるようにする制度なのですが、入管局の統制の下にある制度ゆえ、当事者の動向を監理人は入管局に報告しなければなりません。この監理の内容として、当事者が就労をしていないかをチェックすること含まれます。そして、監理人が入管局への報告義務を怠ると罰金が監理人に科せられます。難民も支援者も苦しめる制度ゆえに改悪法と言

教区のさまざまな働きから

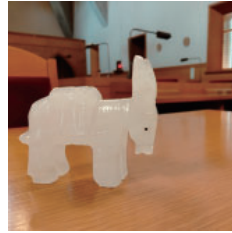
聖職養成委員会

聖職養成委員会の今

委員長 司祭 上田 亜樹子

「召命黙想会」は、4年ぶりに5月5日～6日に「ナザレの家」（元ナザレ修女会）で行われました。参加者は5名でしたが、「聖職への召命」という課題に真摯に向き合い、高橋主教、聖職養成委員と共に全日程を「大沈黙」に包まれて過ごしました。今回のテーマとなった聖句「主

がお入り用なのです」（ルカ19：34）を基に、講師の成成鍾（ソン・ソンジョン）司祭による講話と祈りの課題に向



き合い、「自分はどこに立っているのか」「神の心はどこにあるのか」とひたすら祈る、丸2日間の充実したプログラムとなりました。一方で、講話と講話の間には、自由に黙想をする時間も十分にあり、「普段の生活では体験できないほど、神様と直接、たくさんお話をしました」「すべては神様がお造りになられたもの。生活のすべてが祈り、そして感謝」といった感想も聞かれました。ことに今回は、食事を外注せず、全て委員の手作り（調理も

黙想）によったことも大きかったと思います。2日間4食が供され、祈りと共に作られた食事の温かさもまた、魂の支えとなりました。終了後のアンケートに「召命感は聖職だけのものではなく、様々な信徒の奉仕も召命。この黙想会への参加を認めては」という意見もありましたが、他者の霊性を深めるために自身を差し出し、生涯に渡り自己の信仰生活が厳しく問われ続ける、という意味では、聖職を目指す方は更なる「信仰の成熟」が必要で、信徒使徒職とは別のプログラムの必要性があると改めて思いました。

そしてもう一つ、過去3年間取り組んできたことの

一つに、「見守りプログラム」のカリキュラム化があります。東京教区では、聖職候補生「推薦書」が教会委員会から正式に主教に提出されてから、次に聖職候補生「認可願」を出すまで、1年間の「見守り期間」を過ごさねばなりません。しかし具体的な見守り期間の「過ごし方」については、あまりはっきりとは提示されてきませんでした。そこで、他教派や海外の聖公会での文献なども参考にしながら、志願者自ら「召命を識別する」ためのプログ

ラムを作ってみました。それは、最初から最後まで同じメンバーが祈り、聴き合い、志願者の「識別の旅」を共に進んでいきます。メンバーの構成は、志願者の所属教会の信徒、聖職養成委員、それ以外の信徒あるいは聖職者（他教派含む）で、合計7名程度と考えています。あらかじめ決めたテーマに添い、1回100分程度のプログラムを全10回行います。これは、所属教会からの「推薦書」が受理された人が対象となります。

今年の4月まではZOOMのみで委員会を開催してきましたが、毎回必ず最初に30分程、霊性についての学びの時を持ち、それから協議を始めていました。聖職養成委員会としても、祈りと分かち合いは不可欠であると、改めて心に刻んでいる次第です。

礼拝音楽委員会

礼拝を豊かに

東京教区礼拝音楽委員会の歴史

委員長 斉藤 響子

「豊かな礼拝」とは？ 必ずしも、大勢の会衆や立派な聖堂、上手な聖歌隊ではないでしょう。礼拝は常にその一瞬だけの豊かなものであるはずですが、人は「いつもと同じ」と感じやす



いものです。礼拝音楽委員会の前身は、各教会の聖歌隊を育成

する「聖歌隊（養成）委員会」です。1965年に主催した「第1回聖歌隊フェスティバル」には、12教会から250名の聖歌隊員が参加しました。同年、礼拝音楽研修会を開始。澤邦介司祭が講師を務められた「聖餐式の音楽」などです。

1967年に「礼拝音楽委員会」の名称で、改めて各教会の聖歌隊と奏楽者の育成を二本柱として始動。この年のオーガニスト研修会では、聖歌のテンポやオルガン奏法の基礎などが取り上げられています。その後は、1968年に始まった超教派の「教会音楽祭」にも関わっていきます。

そして1974年に、猿田長春氏指導による「教区聖歌隊」発足。その後、アコライト、オルターギルド等の礼拝奉仕者研修会も開催するようになりま

委員会が目指してきた教区聖歌隊の育成とは、教区礼拝でのより良い奉仕のためだけでなく、隊員ひとりひとりを通しても各教会の礼拝が豊かにされることでした。コロナ禍で、歌うことは大きな影響を受けましたが、この目標を踏まえつつ今後について具体的な模索を始めたところです。

その他の礼拝奉仕者の学びも、少しずつ行ってきました。2008年に始めた「ベストリーツアー」は、教会を訪問し、オルターギルドの方々がどのように心をこめて奉仕しているかを、その教会の様子と共に知ることが出来る楽しいツアーです。リピーターの多い「聖歌集を歌う会」と共に、回を重ねてきました。教区内の礼拝状況調査などのアンケートも、何度も皆様にご協力いただきました。

コロナ禍では、ニューズレターの発行や動画配信での研修会を始めました。今年からは北関東教区の礼拝音楽委員会と合同で委員会をもつています。オンラインで委員会を行うようになったお陰です。

「いつもの」礼拝でも、何かに気づいた時、その瞬間は輝き、一期一会の時となります。そのきっかけの一つが礼拝の豊かさかも知れません。そして、

礼拝を通して神様との一期一会の出会いがあること、それが礼拝によって養われる実感ではないでしょうか。多くの方にその時を重ねていただけるようなきっかけ作り、そこに礼拝音楽委員会の働きがあると思っています。

人権委員会

委員長 佐々木 國夫

1990年の第74教区会に、社会委員会と宣教委員会から「人権委員会設置」の議案が提出され、「教会が人権問題に無関心、無関与であるがゆえに、差別の放置と助長に加担していることは、福音宣教の使命を阻害する。そして、差別される状況に置かれた人びとに対して、教会の門を閉ざしていることにもなる。」と提案理由が述べられ可決しました。

この背景には、1983年の日本聖公会第38総会で、1959年版祈祷書から「天皇のための祈り」「皇室のための祈り」を削除する議案が提出され、議案審議中、ある代議員が「娘を部落の人のところへ嫁にやるかという、躊躇する。」という内容の部落差別発言をし、他の議員から指摘を受けると議事録から自分の発言の削除を願い、議場もそれを承認してしまいました。

ました。この議案はその総会では否決されますが、3年後の第39総会に再提出され可決されました。このとき主教会は「この問題は、発言を行った当事者だけではなく、日本聖公会総会が、このような発言を許した」と、つまり日本聖公会全体の差別体質に起因するものであった。」と総括しています。

こうして東京教区に人権委員会が発足し、部落差別、民族差別、障がい者差別、性差別等の差別事象への取り組み、啓発学習活動、人権問題に関する行政や人権関係諸団体の窓口等の活動を担っています。

人権委員は現在7

名+陪席1名で、人権週間講演会と世界エイズデー礼拝の企画、管区や東京同宗連、NCC、ハンセン病市民学会など諸団体の人権プログラムに参加、「じんけん瓦版」に報告し、皆さまに関心を寄せていただけるよう努めています。



第28回世界エイズデー礼拝

活動事例をご紹介します。毎年12月1日の世界エイズデーに近い日曜日の夜に世界エイズデー礼拝を捧げています。

また、1995年、まだエイズで亡くなる方が多くいた時代に「東京教区エイズプロジェクト」が始動、米国の経験をもった聖職者の尽力により、数

名の人たちが聖書を読み、分かち合う会が始まり、その後人権委員会が継承、昨年28回目を実施しました。匿名性を大切にするため、どんな人が集まっているのかは不明。同性愛者、感染者、発症者、健常者、それぞれの立場を超えて参加されています。2005年に日本基督教団有志、その後カトリック中央協議会、ルーテルHIV/AIDSプロジェクトが共催となり、エキュメニカルな活動になりました。昨年、NCCのエキュメニカル基金の援助をいただき、今年も申請が承認され、準備を開始しました。皆様の参加をお待ちしています。

日本聖公会主教按手式 東北教区主教就任式

4月22日(土)、主教按手式・第9代東北教区主教就任式が東北教区主教座聖堂仙台基督教会で、武藤謙一首座主教の司式により執り行われた。会場参加者とオンライン配信による参加者、たくさんの方の祈りと聖霊の息吹に導かれ、フランス



長谷川 清純主教

エス様が人々に寄り添っていらつしやうと」と繰り返し話された。堅い信仰でイエス様のみ跡に従う長谷川先生の言葉を通して、日本聖公会の被災地の人たちと共に歩む働きは「いっしょに歩こう！プロジェクト」となり、この大きな出来事が今の長谷川主教に繋がっている。

長谷川主教は、東北教区主教としてのご自分の使命を宣教協働と教区再編に向かうことだと話されている。

について語られた。

2011年、東日本大震災の地震と津波、それに続く原子力発電所事故による未曾有の大災害の中で、言葉に尽くせない悲しみ、絶望、喪失を負った人たちの中に、長谷川先生は来る日も来る日も出かけて行かれた。そして、「自分が行く先には既に復活のイ

る。東日本宣教協働区は、北海道教区・東北教区の「チーム北国」と、新教区設立を目指す北関東教区・東京教区の両輪で動き始めている。

長谷川主教と東北教区、チーム北国のこれからの歩みの上に豊かな祝福と導きがありますように。

北関東教区

「信徒一致の日」合同礼拝開催

好天に恵まれた5月3日(水・休)新座にある立教堂聖パウロ礼拝堂において、4年ぶりに北関東教区「信徒一致の日」合同礼拝が北関東教区の聖職団並びに100名近くの信徒が集まり管理主教高橋主教の司式・説教のもと聖餐式により開催された。東京教区からは常置委員



「行ってあなたがたのため」に場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもとに迎える。」という言葉を引きながら、「十字架の前にイエスの語られたこの希望のメッセージをどう受け留め、行動するか」が問われている。私たちは絶えず神の命に生かされているが、命を自分だけのものとするとき拒絶することになる。一緒につながりあつていく



「わたしたち」になつていくとき言葉は一つになつていった。聖霊降臨の出来事は弟子たちの新たな出発であり私たちもまた聖霊の息吹を受けて成長していき



ものであつた。

高橋主教は説教において、ヨハネ福音書の14章3節の

たい。」と語られた。

礼拝後は、各自用意した昼食の後、立教新座中学校・高等学校オルガニストの新妻由加さんによるミニコンサートが行われた。

北関東教区の聖職や信徒の皆さんの家族的なつながりを感じるときのときであつた。

(北関東教区・東京教区宣教協働特別委員会 司祭 須賀義和)

SSネットワーク

「こども春まつり」開催

4月29日(土・休日)の午後1時より3時30分まで聖パウロ教会にて、SSネットワーク主催の「こども春まつり」が行われました。東京教区の教会の垣根を越えて、教会のこども達の交流をめざして開催されました。

当日は聖パウロ教会のロビースペースと部屋を用いさせていただき、所狭しと、楽しいこども向けの多くのゲームコーナーを設け、楽しんでもらいました。来場されたこ

ども達と保護者の方々も共にゲームを楽しみ、大いに盛り上がりました。ゲームに集中して楽しんでいるこども達や、ゲームの方法やコツをこのイベントのお手伝いに来て下さった青年達から真剣に聞いているこども達、またゲームを上手く成功できないこども達、そのこども達一人一人の表情がなんと生き生きとしていたことでしょうか。来場されたこども達は、保護者の方々やこのイベントのお手伝いの青年達、またSSネットワークのスタッフ



手伝いの青年達に来て下さいました。その方々は教区のかつての中高生会のメンバーや、に参加した方もおられました。この繋がりが本当に嬉しい喜びです。

来場された25名の方々、お手伝いの方々、スタッフの皆様

フ達とも交わりを深め、楽しんでいました。そして何よりも、教会のイベントという交わりの場で、他の教会のこども達同士が一堂に会して楽しめ合えたことが、有意義な思い出と出会いになったと思います。

このイベントに11名のお

さんの、総勢49名での楽しいイベントでした。SSネットワークでは今後もこのようなイベントも開催していきたいと願っております。会場を提供して下さいました聖パウロ教会に感謝致します。

(スタッフ 司祭 高橋 顕)

「いのち」を選ぶ教会へ

2021年4月から2022年6月まで行われたパワーシフトキャンペーンは終了から1年が経ちました。期間中には各教会で化石燃料や原子力に依存しない電力への切り替えについて検討をいただきました。コロナ禍において話し合い自体が難しかったとの声もありましたが、昨年配布のアンケートには16教会から回答をいただき、期間中またはそれ以前にパワーシフトを実施した教会は5つ、検討した上で実施を見合わせた教会が8つ、検討の機会が持てなかった教会が3つありました。東京教区事務所では、市民が力を合わせることを目指す「グリーンピープルズパワー」を選びました。環境や命に対する責任に一番共感できる会社との理由からでした。今回パワーシフトを選ばなかった教会でも、エネルギー問題や持続可能な世界のための教会のあり方について話し合ってくださいました。

ことが分かります。

日本は大量消費の国です。東京中心とする首都圏は大量に電気を消費する大都市です。私たちはこの背景に誰がいるのか、何か起きているのか、無自覚でいることはできません。パワーシフトキャンペーンは、1つの取り組みであり、きっかけとなりました。「あなたは命を選びなさい。そうすれば、あなたもあなたの子孫も生きる。」

(申命記30:19b)

(エキュメニカル総主教バルトロメオ、ローマ教皇フランシスコ、カンタベリー大主教ジャスティンのからの「被造物保護のための共同メッセージ」2021年9月1日)

有限なこの地球において、命は、繋がりを循環するものです。私たちは「いのち」を選ぶ教会へ、自らの行動を選択していききたいと思えます。被造物の本来の姿を守り、地球の生命を維持・再生するための努力を続けて参りましょう。

(宣教主事 福澤 眞紀子)

《信徒リレーエッセイ》

開かれた教会を目指して

インマヌエル新生教会

伊藤 久幸

地域に根ざし開かれた教会を目指すため「地域社会部」を創設し、「わかちあいマルシェ」という企画を立ち上げました。地域の方に食品、日用品などを無償でお配りするこの企画も第5回となり、初め少なかった参加者も回を追うごとに増え、定着してきた感があります。

我が教会自慢のお料理上手な「厨房チーム」が作るランチの味も、その要因の一つです。

また教会と共に歩んできたボーイスカウト練馬第5団は、今年で創立58年を迎え、ますます教会との関係性を深めています。

聖歌隊を中心としたクリスマスコンサートなど様々な試みを通して、地域に開かれた教会を目指して参ります。



宣教協議会プログラム

一昨年、アンケートを配布し、それぞれの教区、教会、関連施設・団体で取り組んでおられる働きについてお聞きしました。「み言葉に聴き、伝えること」「世界、社会の必要に応え仕えること」「生活の中で福音を具体的に証しすること」「祈り、礼拝すること」「主にある交わり、共同体となること」「教会の5要素」から。それらを見える形で宣教協議会に持ち寄つてみようという意図から、11月に清里に集まる参加者の皆さんを通じて準備をお願いしています。

信徒数の少ない教会の話を聴くプログラム「私たちのあゆみ」物語を聴く」も予定されています。屋我地聖ルカ教会（沖縄）、厳原聖ヨハネ教会（九州）、大館聖パウロ教会（東北）がご協力くださいます。地域や社会で出会う人と共

に歩み、生きる働

きに焦点を当てる

プログラム「命の

現場から聴く」パ

ネルデイスカッションと分科

会は、昨年8月「ぶどうの枝

協議会」での提案により検討

されたものです。パネリスト

の紹介は宣教協議会プログラ

「管区事務所だより4月号」

から見るができます。

この他、日本聖公会の取り

組みや課題に目を向け、変革

への展望と未来を見据えるた

めのプログラムは宣教協議会

のもう一つの柱となります。

これらは現在、実行委員会

で詰められています。

いつも私たちの真ん中に

「ぶどうの木」であるイエス

様を見つめながら、11月に向

けて、皆さまと共に歩む宣教

協議会、清里への道のりとな

るようにと願っています。



宣教協議会ホームページ

―宣教協議会のために、お祈りください―

◎宣教協議会のための祈り

信頼と和解、平和と正義の源である主よ、人間の愚かさや誤りにより、今なお戦争、弾圧、差別、分裂の絶えないわたしたちの世界を顧みてくださ。日本聖公会宣教協議会へと向かう歩みを祝福し、わたしたちがこれまでの歩みを振り返り、その実りを感謝することができまうようにお導きください。そして、新たな歩みの出発点とすることができまうように、わたしたちの足元を照らし、知恵と力をお与えください。

あなたは、み子イエス・キリストを通して、すべてのいのち、とくに小さくされている人々と共に生きることの大切さを示してくださいまし。どうかぶどうの木である主につながり、生きとし生けるものの『となりびと』となる道を歩むことができますように、わたしたちをお導きください。主イエス・キリストによってお願いいたします。

アーメン

◎子どもたちと共に捧げる祈り

すべてのもののつくりぬしなるかみさま、あなたのためには、わたしたちはみな、おなじようにとうといものです。どうかわたしたちが、あなたのであわせてくださったひとすべてを、イエスさまがなさったように、たいせつにすることができまうように。また、あなたがおつくりになったものすべ

てを、かけがえのないものとして、だいじにしてゆくことができますように。そしてわたしたちを、ほんとうのへいわがやってくるために、はたらくものとしてくださ。イエスさまのみなによつておいのりいたします。

アーメン

次回 秋号

10月22日発行予定

ちょっと聖書、ときどきユーモア（五十六）

1. 流行のって

あるご婦人が牧師の説教に感動し、それをかっよく伝えようとして、野球のWBCで流行った結んだ右手と左手をすり合わせるベッパ―ミルポーズをとりながら「先生、今日の説教は素晴らしいです」と言っていた。

しかし、それを横で見ていた私には、その仕草が“ごますりポーズ”にしかみえなかった。

2. 複雑な心境

信徒「今日の説教は今までの中で一番良かったです」

牧師「やはり・・・そうですか・・・」

信徒「あまり嬉しそうじゃないですね」

牧師「ここだけの話ですが、今日の説教は試しに

“チャットGPT”で作ってみました」

3. 人は塵にかえる・・・

SS教師「人はみんな、やがてチリにかえるのです」

こども「先生、質問があります」

SS教師「なんでしょう」

こども「どうして人はみんな、南米のチリに帰らなきやいけないのですか」